

令和5年度 学校評価

学校番号	学校名	校長名
113	川崎市立栗木台小学校	袴田 深雪

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
豊かな心を持ち たくましく生きる 栗木台の子 ○進んで学ぶ子 ○心あたたかい子 ○高め合う子 ○元氣な子	○学び合う学校づくり(学びの育ち) ○支え合う学校づくり(心の育ち) ○安心・安全な学校づくり(安心・安全)	・あたたかな聴き方、やさしい話し方 スタンダード2年目 ・自己肯定感、自己有用感を高める ・自己判断力の育成 ・開かれた学校づくりとしてのホームページの充実

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 【学び合う学校】 ①基礎学力の定着と活用・授業力向上	子どもたちがいきいきと活動し、学ぶことの喜びや充実感を味わい、楽しく豊かに学び合い、心から「わかった」といえる授業づくりを促進する。 ICT端末を最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実した授業改善につなげる。 校内で積極的に研修を行い、各自の指導力を向上させ、学校単位で組織的な教育レベルの底上げをねらう。	児童アンケートでは、授業中に「わかった」「できた」と感じる事が「ともある」「だいたいいある」という肯定的な回答が90%見られた。教員一人一人が児童理解をした上で教材研究を進め、わかる楽しさやできる喜びを感じられる授業改善を行っている」と評価できた。しかし「あまりない」「まったくない」との回答が10%見られる。また、新川崎市学習状況調査で「算数の授業がよくわかる」と答えた4年の約90%に対して、6年では約70%まで下がっていた。学習に不安を感じている児童や学年が上がるにつれ困難を抱える児童にどう支援していか今後の課題である。	今後も、児童が「何を学ぶのかわかる」「何ができるようになるかわかる」ために、学習課題や学び合いのめあてを明確に提示し、「何を考えればよいのかわかる」「何を表現すればよいのかわかる」ために、自分で評価ができるように判断基準を明確に示しながら、わかりやすい授業を心掛けていく。さらに、個別学習・グループ別学習・繰り返し学習・習熟の程度に応じた学習・児童の興味関心等に応じた課題学習・補充的な学習・発展的な学習などの様々な学習を取り入れたり、教師間の協力による指導体制を工夫したりしていく。また、個別指導や入り込み指導を続け、学習に不安を感じている児童への可能な限り個別支援を行いたいと考えてい
2 【学び合う学校】 ②あたたかい聴き方、やさしい話し方を大切に した国語科指導法の研究	「自分の考えをもって表現し、伝え合う子を目指して」を研究テーマにし、今年度は、「読むこと」に絞り、研究を進めています。サブテーマを「言葉って面白い 読むって楽しい もっと伝えたい 気持ちを大切に」とし、新たに言葉を獲得すること、考えること、想像すること、友達と意見を共有することの楽しさを十分味わえるよう進めていきたい。読書についても、継続、積み重ねを大事にし、読書好きな児童が更に増えるよう取り組む。	「読む」＝言葉の獲得 考えること・想像することは楽しい。新しい言葉を知り、語彙を増やし自分の気持ちや考えがより伝わりやすくなる術を身に付けていくことは、国語の時間に限ったことではない。しかし、その一端を担っていることには変わりはなく、教材を深く読み取る力を獲得することで、子どもたちの読解力はつくどくなる。集団で学習するよさは、たくさんの意見を見聞きしより広い考え方に気付くことにあります。「よい聞き手」が「よい話し手」を育て、「よい話し手」が学習の深まりを生むと言われています。今年度学校全体で栗木台小学校の聴き力・話し力のスタンダードに立ち戻り、「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を全ての学習で定着していくよう努めたいと考えています。	2年生以上の児童に「言葉の宝箱」冊子を配付した。道具箱の中に常時入れておけるサイズで、6年生までに獲得してほしい言葉についてまとめている。豊かな読み書きができるように活用していきたいと思う。栗木台小学校が目指す対話の系統性【児童用】を一人ずつに配付し、教室にも掲示していく。低中高学年それぞれでねらい方を明記することで、段階をおって力がついていくことが可視化されている。時程の変更により、朝読書の時間を確保している。特に高学年は、委員会活動などが入り読み聞かせのボランティアさんに変更をお願いすることがあった。来年度は、どの学年も計画的に読み聞かせをお願いしていきたい。
3 【学び合う学校】 ③一人ひとりに応じたきめ細やかな学習支援	一人一人の見取りを大事にすると共に、個のニーズに合わせた支援教育を行っています。複数の職員で学習支援にあたり、個別指導したりするなど職員同士が情報を交換し合い、より適切な指導法を検討し実践する。	「学習中わからないことがあるときには友達や先生、ボランティアさんなどに聞いて解決することができた。」の問いに対して、とてもそう思う・そう思うを合わせて約90%の回答(児童)になっている。児童が安心して学べる学級環境作りが心がけられたこと、また、一人一人の学びを見取るための学習評価のあり方を全職員で研修し、必要な支援ができたことが成果につながったと思う。	今後も「わかる」「できる」をめざした授業作りをしていきたいと思う。また、GIGA端末の有効活用することで個別最適な学びを実現させたいと思う。
4 【支え合う学校】 ①一人ひとりを大切に した学校(人権・道徳教育の充実)	道徳教育全体計画及び人権教育全体計画に基づいた学びを実施することで子ども達の自己有用感を育み、安心して過ごすことができる学校、学級をめざす。支援教育コーディネーターを中心に多くの目で子どもたちを指導し、教育的ニーズを踏まえた適切な支援をする。	「友達のことを大切にしながら助け合って生活ができた。進んであいさつをしたり、くりこりのやくそくを約束を守ることができました」の問いに対して、とてもそう思う・思うを合わせて回答が95%の回答(児童)となっている。広い視野からの児童理解・内面への共感的理解するために学校生活アンケートや「SOSの出し方・受け止め方教育」を実施してきました。それが児童の心の安定につながっていると考えられる。	児童から進んで、学校巡回カウンセラー・教育支援コーディネーター・養護教諭など、担任以外にも相談に来る子が増えている。今後も児童が安心・安全に過ごせる環境作りを努めていきたいと思う。
5 【支え合う学校】 ②自主的な活動の充実	よりよい学校にするために、代表委員会を中心に話し合い、あいさつ運動や生活目標の振り返りなどを行う。本年度は、児童の学校生活の中から出た学校全体で話し合う必要があることを中心に、GIGA端末を活用しながら有意義な代表委員会にしていく。自主的な活動を充実させ、それらの活動を通して、見通しをもって行動する力や物事を計画的に進める力を育てていく。	「集会や行事などいろいろな活動に積極的に取り組みました」の問いに対して児童は、Aそう思う62%B大体そう思う34%あわせて95%の回答になっている。今まで自粛してきた行事が行えるようになったことや各委員会が中心となり学校生活を充実させるための取り組みを考え行ってきた。そのため子どもたちは、自分たちで活動を作り上げたという充実感や達成感をもつことができたと思われる。	今後も児童の思いを大切にしながら自主的な活動を充実させ、それらの活動を通して、見通しをもって行動する力や、物事を計画的に進める力を育てていきたいと思う。
6 【安心・安全な学校】 ②交通安全・防災、防犯対策の確立	栗木台小学校版の災害対応マニュアルを教職員で共通理解するとともに、保護者向けに「学校安全ナビ」を配付し、危機管理の意識向上を図る。 防災意識を高め、どのような非常災害においても、児童が自分の身を守る行動がとれるようにするために、地震や火災などの非常災害を想定した訓練を実施する。 避難訓練や保護者への引き渡し訓練、シェイクアウト訓練のいずれかを毎月実施します。また、交通事故を未然に防ぐために、交通ルールを知り、安全に自転車を運転するための交通安全教室を1年生と4年生で実施する。 不審者が侵入した際の身の安全を確保するための適切な行動について学ぶ、防犯研修や防犯訓練を実施する。	災害対応について教職員で共通理解をし、保護者への案内を行った。 地震・火災訓練や、引き渡し訓練、シェイクアウト訓練などを定期的に行い、児童や教職員の動きの確認ができた。児童も動きに慣れてきていたが、出てきた反省は次の回に生かすようにした。より様々な場面での訓練を検討していく必要があると考えられる。 不審者対応訓練で、児童や教職員の動きを確認できた。反省は、次年度に生かすようにする。	避難訓練やシェイクアウト訓練などを、今年度の場面設定をもとにして、さらに様々な場面で行っていく。例えば、予告なしでの中休み避難訓練や、今年度に引き続いての掃除時間などでの実施を検討していく。
7 【安心・安全な学校】 ③校舎内外の整備・教育環境の整備	安全で快適な学校施設であるために、毎月教職員で安全点検を行っています。気づいたことは教職員だけでなく、専門家の目でも危険がないかを確認し、必要に応じて修繕を行う。昨年度、いくつかの遊具が撤去されました。長期にわたって学習でも使用できる遊具を新設できるよう働きかける。	施設整備の面で大きな支障なく過ごせたのはよかった。気になる箇所は毎月の点検で報告されるが、細かいものは迅速に修繕を行うことができています。一部委員会の審査を待っているものもあるので、粘り強く交渉していく。今年度は放送設備やプールのトイレ、防災設備などが使いやすくなった。	教室内の着替え用カーテンのように児童の学習環境を考えると必要な物品に関してはPTAからの寄付を有効活用させていただき、早期に設置できるように考えていく。今後も修繕に関しては委員会報告を適切に行い、粘り強く働きかけるよう努める。遊具新設に関しては再生整備計画に基づいて進めていくよう働きかける。
8 【安心・安全な学校】 ①教育計画の取組と成果の情報公開	今年度も、ホームページを通して、学校だよりや学年だよりなど学校からの情報や児童の様子を家庭や地域に配信する。今後も、学校での児童の様子を知って安心してもらえるよう、各学年の活動を、写真や文章で伝えていく。	ホームページをほぼ毎日更新し、児童の様子を積極的に伝えていき、保護者の方がホームページを閲覧する機会も増えてきた。特に自然教室や修学旅行の時に、児童の様子をリアルタイムで伝えていく取り組みについて保護者の方から好評をいただいたので、今後も続けていきたい。	今後も、ホームページを通して、児童の様子を積極的に伝えていきたい。また地域にもホームページについての周知を図り、学校や児童を共に見守り、育てていくという思いを伝えていきたい。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
・子ども達が進んで挨拶するなど気持ちの良い態度が見られていた。学校教育目標に沿って、良い子ども達が育っていることを実感した。 ・校内研究(国語)が、3年目ということで掲示物を見るとその成果が感じられた。また、GIGA端末の使用、調理実習、クラスでの話し合い、合唱など多様な活動が行われていることが授業参観から分かった。 ・支え合う学校として担任以外の教職員が子ども達の相談に乗る体制は、子ども達にとって多様な選択肢として安心して学校で過ごせることに繋がっている。 ・学校の立地から、避難所としての使用に関しては、地域、行政、学校と十分今後検討する必要があると感じられた。	・学び合う学校として、温かい聴き方スタンダード2年目ということで、各クラス話型を貼る等して常に意識する環境をつくって学校内の活動を行ってきた。児童もそのことを踏まえて学校生活を送ってきた。今後もより深い学びにつながるよう引き続き話し方、聴き方を児童、教職員ともに意識して高めていく。 ・支え合う学校として教職員で連携を図り、多様な児童へのきめ細やかな対応を行うよう努めた。問題が起きた時には、速やかに対応することに校内一丸となり進めてきた。どの子も学校が落ち着ける場所となるよう今後も細やかに児童を見とり、対応に努めていく。 ・安心安全な学校を目指して毎月の校内の安全点検、避難訓練を実施した。特に今年度は、初めて児童参加の不審者対応訓練を実施した。また教室に不審者が、入ることを防ぐ道具を用務員が他校の情報から作成した。避難場所としては、立地が適しているとは言えないので、今後について行政と相談して良い在り方を探っていく。